

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 16 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320051

研究課題名（和文）19世紀以前の日本と東アジアの〈予言文学〉をめぐる総合的比較研究

研究課題名（英文）Comprehensive Comparative Research on the Prophecy Literature of Japan and East Asia Prior to the 19th Century

研究代表者

小峯 和明 (KOMINE KAZUAKI)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：70127827

研究成果の概要（和文）：

日本中世の物語類を中心に、〈予言文学〉に関わる表現やモチーフの資料集を作成し、さらに予言書、未来記、託宣書、夢記、起請文、遺言、遺訓などの文書類のリストを作成、資料集としてまとめた。東アジアに関しては、北京、ソウル、ハノイ、パリ、ロンドン、ボストンなどで資料調査を行い、貴重な資料を収集した。それらの成果をもとに、北京、ハノイ、パリで〈予言文学〉をめぐる国際学会や研究会を主催し、論文集としてまとめた。

研究成果の概要（英文）：

Focusing on Japanese medieval tales, I compiled a set of materials on the expressions and motives corresponding to prophecy literature; additionally, I drew up a list of the types of literature, such as prophecy texts, prognosticatory records, oracular texts, dream records, oaths, testaments, and posthumous instructions, and collected the materials in a database. With regard to East Asia, I conducted investigations of material in Beijing, Seoul, Hanoi, Paris, London, Boston, etc., and assembled valuable materials. On the basis of these results, I hosted international conferences and research collegia on "Prophecy Literature" in Beijing, Hanoi, and Paris, and gathered the collected proceedings.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総計	11,700,000	3,510,000	15,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：東アジア、予言文学、比較説話、未来記

1. 研究開始当初の背景

〈予言文学〉とは、代表者がはじめて命名した新概念であり、予言書・預言書・未来記にとどまらず、神仏の託宣書、夢想記、あるいは遺言書、遺訓、遺告、遺戒、遺書の類も

あわせたものをいう。未来に託され、未来を律し、過去と現在と未来を繋ぐために語られ、書かれるテキスト総体を指す。未来へのメッセージとして一括りの範疇に据えようとするもので、従来の研究では文学として充分認

知されていなかった。代表者は中世日本の未来記で最も影響力を持った「聖徳太子未来記」と「野馬台詩」を中心に研究を進め、すでに二点の著書を刊行したが、これを日本だけにとどまらず、以前から標榜している東アジアの漢文文化圏の一環として考究すべきことを痛感するようになった。

これらの〈予言文学〉は資料的にどの程度残存し、またどのように読まれ、影響力を及ぼしたか、その全体像がつかめておらず、資料学の基底から追究する必要がある、基盤的な研究成果をふまえて、〈予言文学〉を軸に総合的に把握することで、既成の古典文学をあらたに読みかえることができると確信するに至ったものである。

2. 研究の目的

(1) 中世日本文学研究では、予言書としての未来記はすでに市民権を得つつあるが、予言書にとどまらない未来にかかわる予言的な言説総体を対象にすることで、文学史や文化史のあらたな書き換えを試みる。

(2) 日本文学・文化のよってたつ基盤として東アジアの領域、特に中国、朝鮮半島、ベトナム、琉球など前近代の漢文文化圏の様相の掌握をも併行して推進することを目的とする。

(3) 日本と東アジアの〈予言文学〉について、基礎的な資料探索、書誌調査からはじめてその全容をとらえ、相互の比較研究を総合的に試み、中世の領域を主体としつつも、時代分けにこだわらず、ひろく前近代の東アジアにわたる古典学の一領域として定位する。

(4) 東アジアの調査地は、漢字文献を豊富に所蔵する北京・台北・ソウル・ハノイを主対象とし、関連して欧米諸国の調査にも及び、現地の研究者との積極的な学際交流をふまえた研究協力体制作りをも目標とする。そ

の実践として、資料学をもとにした研究会を組織し、国際会議を主催する。

3. 研究の方法

(1) 前近代の〈予言文学〉の関連資料群の確定と仮目録の作成

(2) 上記にもとづく国内の〈予言文学〉関連の資料調査と収集

(3) 東アジア各地の〈予言文学〉関連の資料調査と収集

(4) 欧米所蔵の日本と東アジアの〈予言文学〉関連の資料調査と収集

(5) 上記の調査収集にもとづく総合目録の作成、データベース化と公開

(6) 上記をふまえた研究会の組織による資料解読と総合的な比較研究

(7) 〈予言文学〉関連の資料集の作成と公開

(8) 〈予言文学〉を主題とする国際会議の開催、各種学会における成果報告、論文集の公開

4. 研究成果

(1) 日本と東アジアにかかわる〈予言文学〉のリスト作成と公開—資料が膨大にわたるため、中間報告的なかたちでまとめた。

(2) 日本と東アジアの〈予言文学〉をめぐる資料の書誌データの作成と公開—殊にベトナムの漢文資料調査はあまりなされていないため、貴重な成果といえる。

(3) 中世文学を主対象に〈予言文学〉をめぐる資料集作成と公開—軍記、お伽草子、舞の本・説経節などの語り物、説話等々、物語系のテキストにもとづくもので、物語と〈予言文学〉との密接な関係が明らかになった。

(4) 〈予言文学〉をめぐる研究会の組織と資料解読—継続中の琉球文学、朝鮮漢文の研究会に加えて、北京であらたに研究会を始め

た。ベトナム資料の会発足の如何が今後の課題として残る。

(5) 〈予言文学〉に関する国際会議の開催—北京日本学研究中心、ハノイの漢喃研究院、アルザス欧州日本学研究所、パリの国立東洋言語文化研究院などで、〈予言文学〉をめぐる国際会議を開催した。

(6) 〈予言文学〉に関する論文集の公刊—北京とハノイでの国際会議をもとに『東アジアの今昔物語集』で勉誠出版から論文集を公刊の予定(5月刊行予定)。また、パリ・アルザスでの国際会議をもとに『アジア遊学』での特集号「〈予言文学〉の世界、世界の〈予言文学〉」を公刊の予定(10月刊行予定)。

また、個別に〈予言文学〉についての論文も複数公表しており、総じて学界への反響はおおきく、論集の公刊によってさらに〈予言文学〉への関心がひろがることは確実である。

美術史などでも予言文化がテーマになってきており、人文・社会科学領域で〈予言文学〉がひろく認知され、研究機運が高まることが予測できる。

さらに国際会議の成功によって、海外の研究者に与えた影響も大であり、地道な資料学の確立とあいまって東アジアの研究協力体制をおおきく前進させることができた。今後さらに東アジアの資料学をふまえた研究の深化が期待できる。

なお、代表者は本研究をもとに〈予言文学〉研究の三冊目となる『聖徳太子未来記の研究』をまとめる予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 40 件)

1. 小峯和明 「ことわざ・物語論」、『文学』岩

波書店、2011、2-11、査読無

2. 小峯和明 「中世日本紀の物語世界」、新川登亀男・早川万年編『史料としての日本書紀』、勉誠出版、2011、274-296、査読無

3. 小峯和明 「南方熊楠・東アジアへのまなざし」、『南方熊楠とアジア』、アジア遊学 144、勉誠出版、2011、30-39、査読無

4. 小峯和明 「南方熊楠と熊野世界」、『環境という視座』、アジア遊学 143、勉誠出版、2011、37-43、査読無

5. 小峯和明 「東アジアの法会文芸—願文を中心に」、『仏教文学』35号、2011、138-151 査読無

6. 渡辺憲司 「文化表象としての環境」、『環境という視座』、アジア遊学 143、勉誠出版 2011、127-132、査読無

7. 金文京 「項橐考—孔子的傳説」、《中國文學學報》創刊号、北京大學中文系・香港中文大學中文系、2011、1-19、査読無

8. 金文京 「明代『三国志演義』テキストの特徴—中国国家図書館蔵二種の湯賓尹本『三国志伝』を例として」、大澤顕浩編『東アジア書誌学への招待』(学習院大学東洋文化研究叢書)第二巻、東方書店 2011、81-96、査読無

9. 金文京 「中巖円月の中国体験—科挙との関係を中心として」、『文学』、岩波書店、2011、53-65、査読無

10. 金文京 「韓日の漢文訓読(釈読)と漢訳仏典およびその言語観と世界観」、『人文科学』第94集、延世大学校人文学研究院、2011、19-38、査読無

11. 金文京 「言語資源としての漢字・漢文」、『文学』岩波書店、2011、39-51、査読無

12. 金文京 「『玉燭寶典』所載『法没盡經』に見える老子・孔子・項橐三聖派遣説」、『東方宗教』117号、日本道教学会、2011、1-17、査読無

13. 金文京「天賜夫人考—風で飛んで来た花嫁の話」、麥谷邦夫編『三教交渉論叢続編』、京大人文研、2011、355—378、査読無
14. 増尾伸一郎「黎明記の記紀神話研究をめぐる動向—津田左右吉と高木敏雄・柳田国男を中心に」、新川登亀男・早川万年編『史料としての日本書紀』、勉誠出版、2011、406—432、査読無
15. 増尾伸一郎「交錯する〈羽衣〉伝承—二十世紀の東アジアにおける比較研究をめぐって」、堀池信夫編『知のユーラシア』、明治書院、2011、345—377、査読無
16. 増尾伸一郎「日本古代の漢詩文と道教的医方書」、『日語学習と研究』153号、中国日語教学研究所、2011、15—20、査読無
17. 小峯和明「東アジアの中世文学」、『国文学解釈と鑑賞』、至文堂、2010、16—27、査読無
18. 小峯和明「〈予言文学〉の射程—過去と未来をつなぐ」、『日本文学』日本文学協会、2010、2—12、査読無
19. 小峯和明「竜宮と冥界」、『別冊太陽妖怪絵巻』、平凡社、2010、130—137、査読無
20. 小峯和明「お伽草子と狂言—料理・異類・争論」、『アジア文化研究別冊』18号、国際基督教大学、2010、15—21、査読無
21. 渡辺憲司「くがい考」、『立教日本文学』105号、立教大学日本文学会、2010、22—30、査読無
22. 渡辺憲司「床入り雑記」、『西鶴と浮世草子』4号、笠間書院、2010、137—147、査読無
23. 渡辺憲司「近世文学の笑い」、『国文学解釈と鑑賞』至文堂、2010、27—36、査読無
24. 渡辺憲司「琉球遊里雑記—薩摩・秦淮の遊里に触れて」、小峯和明・池宮正治編『古琉球をめぐる文学言説と資料学』、三井弥書店、2010、18—28、査読無
25. 金文京「仏典漢訳の訓読および仏教文学にあたえた影響」、『仏教文学』35号、仏教文学会、2010、175—182、査読無
26. 金文京「漢文文化圏の提唱」、小峯和明編『漢文文化圏の説話世界』竹林舎、2010、12—26、査読無
27. 金文京「金庸の武俠小説と當代中国社会主义文化」、『中国社会主义文化の研究』、京大人文研附属現代中国研究センター研究報、2010、245—263、査読無
28. 金文京「富岡鉄斎撰併書羽倉豊墓誌銘について」、『書法漢学研究』、書法漢学研究会、2010、42—47、査読無
29. 金文京「董解元西廂記諸宮調の構成と言語表現について」、『東方学報』85冊、東方学会 2010、339—362、査読無
30. 増尾伸一郎「中国・朝鮮文化の伝来—儒教・仏教・道教の受容を中心として—」、荒野泰典編『東アジア世界の成立』、吉川弘文館、2010、164—191、査読無
31. 増尾伸一郎「〈文選博士〉考—吉備真備・阿部晴明・大江匡房をむすぶもの」、小峯和明編『漢文文化圏の説話世界』、竹林舎、2010、141—170、査読無
32. 小峯和明「『釈迦の本地』の物語と図像」、『文学』、岩波書店、2009、74—89、査読無
33. 小峯和明「東アジアにおける日本文学—研究の動向と展望」、『日語学習と研究』141号、中国日語教学研究所、2009、81—89、査読無
34. 小峯和明「南方熊楠と熊野の伝承世界」、『熊楠ワークス』33号、南方熊楠顕彰会、2009、3—13、査読無
35. 渡辺憲司「キリシタン文学とノンフィクション文学—島原の乱を中心に」、『キリシタン文化と日欧交流』、アジア遊学 127号、勉誠出版、2009、120—129、査読無

36. 金文京「詩讚系文芸と楽曲系文芸」、田仲一成他2名編『中国近世文芸論—農村祭祀から都市芸能へ』、東洋文庫、2009、273-289、査読無
37. 金文京「高麗本『孝行録』と中国の二十四孝」、『韓国文化』45号、ソウル大学奎章閣韓国学研究院、2009、3-14、査読無
38. 増尾伸一郎「禅師広達とその周辺—古代東国仏教史の一断面」、『房総を学ぶ』5号、東京成徳大学、2009、58-74、査読無
39. 増尾伸一郎「孫晋泰の比較説話研究」、『朝鮮民譚集』、勉誠出版、2009、1-20、査読無
40. 増尾伸一郎「門出と餞別をめぐる習俗と文芸」、倉田実・久保田孝夫編『王朝文学と交通』、竹林舎、2009、155-182、査読無
- [学会発表] (計 18 件)
1. 小峯和明「袋中『琉球神道記』を読み直す」、中国人民大学、「日本文学における中国的題材」国際会議、2012年2月25日
2. 小峯和明「〈予言文学〉の世界、世界の〈予言文学〉」フランスINALCO、「〈予言文学〉の世界、世界の〈予言文学〉」国際会議、2011年11月2日
3. 金文京「毘沙門信仰によると都市伝説と預言書」フランスINALCO、「〈予言文学〉の世界、世界の〈予言文学〉」国際会議、2011年11月2日
4. 増尾伸一郎「讖緯・童謡・熒惑—日本古代の文芸にみる〈予言〉」フランスINALCO、「〈予言文学〉の世界、世界の〈予言文学〉」国際会議、2011年11月2日
5. 小峯和明「法会文芸としての芸能」、コロンビア大学、「仏教と芸能」学会、2011年10月14日
6. 小峯和明「龍宮をさぐる」、コロンビア大学、「日本の視覚文化」学会、2011年9月16日
7. 小峯和明「ブッダの物語と絵画を読む」、ルーマニア・クリスチャン大学、「日本学」国際会議、2011年8月31日
8. 小峯和明「口伝と筆録」、延世大学、「東アジアの文字と口頭言語」国際会議、2011年5月27日
9. 金文京「韓日の漢文訓読（釈読）と漢訳仏典およびその言語観と世界観」、延世大学、「東アジアの文字と口頭言語」国際会議、2011年5月27日
10. 小峯和明「往く人、来る人・幻想の異文化交流」、韓国・建国大学、日本学会、2010年11月13日
11. 小峯和明「東アジアの今昔物語集」、ハノイ漢喃研究院、「今昔物語集と〈予言文学〉」国際会議、2010年11月1日
12. 小峯和明「日本学研究の現状と展望」、北京日本学研究センター、「北京日本学研究センター創設40周年記念」国際会議、2010年10月16日
13. 小峯和明「笑いと〈予言文学〉」、アルザス欧州日本学研究所、「笑いと〈予言文学〉」国際会議、2010年9月18日
14. 増尾伸一郎「『今昔物語集』の物気と物怪・物忌」北京日本学研究センター、「東アジアの今昔物語集と〈予言文学〉」国際会議、2010年3月20日
15. 小峯和明「東アジアの今昔物語集と〈予言文学〉」、北京日本学研究センター、「東アジアの今昔物語集と〈予言文学〉」国際会議、2010年3月19日
16. 小峯和明「南方熊楠・比較説話学の形成」、ロンドン大学、「南方熊楠」学会、2010年2月19日

17. 小峯和明「南方熊楠と熊野世界」、立教大学、環境文学学会、2010年1月9日

18. 小峯和明「須弥山の凶像と物語」、インド・ネルー大学、「アジア新時代の南アジアにおける日本像」国際会議、2009年11月3日

〔図書〕(計9件)

1. 小峯和明・増尾伸一郎共編訳、平凡社・東洋文庫、『新羅殊異伝－散逸した朝鮮説話集』、2011、312
2. 渡辺憲司著、青春出版社、『吉原の落語』2011、208
3. 金文京著、成均館大学校出版部、『三国志の世界』、2011、543
4. 金文京著、国際高等研究所、『能と京劇－日中比較演劇論』、高等研選25、2011、93
5. 小峯和明編著、竹林舎、『漢文文化圏の説話世界』中世文学と隣接諸学1、2010、541
6. 小峯和明・池宮正治共編著、三弥井書店、『古琉球をめぐる文学言説と資料学 東アジアからのまなざし』、2010、567
7. 金文京著、東方書店、『三国志演義の世界』、2010、302
8. 金文京著、岩波書店(岩波新書)、『漢文と東アジア－訓読の文化圏』、2010、223
9. 小峯和明著、笠間書院、『中世法会文芸論』、2009、621

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小峯 和明 (KOMINE KAZUAKI)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：70127827

(2) 研究分担者

渡辺 憲司 (WATANABE KENJI)

立教大学・日本学研究所・名誉教授
研究者番号：00123761

金 文京 (KIM BUNKYO)

京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：60127074

増尾 伸一郎 (MASUO SHINICHIRO)
東京成徳大学・人文学部・教授
研究者番号：60183943

(3) 連携研究者

なし